



## 出直之筆『北亜墨利加図巻』

天保15年（1844）

阿波国の農民初太郎は、天保12年（1841）8月、兵庫の中村屋伊兵衛持船永住丸に水主として乗り込んだ。乗組員は13人で船頭は紀州周参見出身の井上善助であった。兵庫から酒・塩・砂糖・綿などを積み奥州南部へ至る途中嵐のため漂流、後にスペイン船に救われ、その後、彼らは行動を別にするが初太郎、善助等は天保13年（1842）にメキシコのサン・ルカスに上陸した。更にサンホセ、マサトランに移り、マカオ、乍浦を経て無事長崎に帰着する。

この事件は、初太郎が阿波藩に引き取られ藩主に引見、漂流の顛末を儒臣前川文蔵が聞き取り編集した『亜墨新話』として後世に伝わっている。

本巻物は、初太郎の証言をもとに描かれたものと思われ、巻頭に「出直之 天保十五甲辰年十月廿七日 北亜墨利加」とある。初太郎が目にしたメキシコ等の地域での風景、人物、衣服、食物、住居、動物、植物の様子が描かれている。